
夢現草紙

文愚堂 直純

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢現草紙

【Nコード】

N4754E

【作者名】

文愚堂 直純

【あらすじ】

夢か現か満月の夜におきる不思議あなたは信じますか

その日も、今夜のように蒸し暑く、南の空には薄雲のかかる望月がぼんやりと浮かんでいました。わたくしは、庭で犬に餌をやるうと使い古した瀬戸の茶碗に山盛りにして、家の戸を開けました。

白い毛を月の光りにしつとりとかがやかせながな、尾をしきりに振ってわたくしの来るのを待っておりました。いつものように、その茶碗を大きな石の上のせておいたのです。

毎日、喜び勇んで喰い付くのですが、なぜかその日だけはわたくしに尾を振るだけで餌には見向きもしなかったのです。朝から降り続いた雨のせいで、小屋にまるくなっていたので腹もあまりすいていないのだろうと思いわたくしは家の中へ入りました。

しかし不思議は次の朝起きたのです。わたくしは、今もそのことを思い出す度に、頭の中が真っ白になってしまいました。

東の窓に朝日が射し、前日の天気とは一転し一面に雲の一片もない青空が広がっていました。わたくしは、水道の生暖かい水で顔を洗うことが好きでないので、冷たく冷えた井戸水を汲むために外に出ました。

わたくしは、その時我が目を疑いました。

戸の外に、一人の女が立っていたのです。わたくしとあまりかわらないほどの背丈でしたが、その眼光は青白く、顔はひどく痩せていました。長い黒髪は、はげしく乱れ、身は安宿の浴衣のようなものが細い帯紐でわずかに巻かれているだけでした。

しかも、その女の胸には細い腕に抱かれた赤ん坊が眠っていました。白い麻のような布に包まれた小さな赤子はわずかに寝息を立てているようにわたくしには感じられましたが、生死の判別をつけることができなかったのがそのときの正しい思いでした。

わたくしは、まだ自分が夢の中にもいるのではないかと思い、

何度か正気であることを確かめましたが、やはりあの時の出来事は現実であったのだと今になってそう思えるようになりました。そのときは、是が夢であって欲しいとの唯一念が私の前の現実を夢であるかのように無理矢理に自分に言い聞かせていたのです。

その女は、静にわたくしの家の戸の前に立っていました。わたくしには、思い当たる節が確かになかったのです。人違いではないのか、と私は自分の名を名乗って、その女に尋ねました。しかし、そうではない、というような顔をするのです。

わたくしは、どうすることもできずに、戸をそのまま閉めてしまおうかとも考えました。しかし、その時です。

胸に抱かれて寝むっていたはずの赤子は、目を覚まし、きゃんきゃんと泣くではありませんか。

人間の赤子の泣き声でないことは、すぐにわたくしにも判断ができました。わたくしは、背筋に冷たい汗が幾筋も流れ落ちるのを感じました。このまま、戸を閉めてもう一度布団の中に入れば、この悪夢から解き放たれるかもしれない、という平凡な思考が既にわたくしの体と行動とを支配していました。

出る限りの力で戸を勢いよく閉めると、鍵をかけ、わたくしは布団を頭までかけて目を瞑りました。震える体が冷たい汗をしきりに発していました。

真つ暗闇の布団の中で意識の遠退いていくのを覚えています。極度の緊張と疲労とで体がわたくしの意識を奪ってしまったのだろうと思います。いつしか、わたくしはまどろんでしまっていたのでしよう。その時の後のことは全く覚えてはいないのです。

そして、いつもの朝が東の山を越えてやってきました。朝曇の空でした。

この不思議の出来事が今も夢の中の妄言であるという人もいます。確かに、日付はそうなのです。あの満月の夜は17日、そし

ていつもの朝を迎えたのが18日であることをわたくしは新聞で確かめました。しかし、唯一つ、あの出来事が本当にあったのだとわたくしを確信させることが、その朝に起きていました。

革の首輪にくぐられ、鉄の鎖につながっていた庭の白い犬が首輪だけをそこに残して姿を消していたのです。

そして、餌を盛った茶碗の横には白い布があったからです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4754e/>

夢現草紙

2011年1月8日03時58分発行